

# 「地域住民主体MM」における「自覚的バストリガー方式」を通じたバスサービス拡充に関する物語描写研究

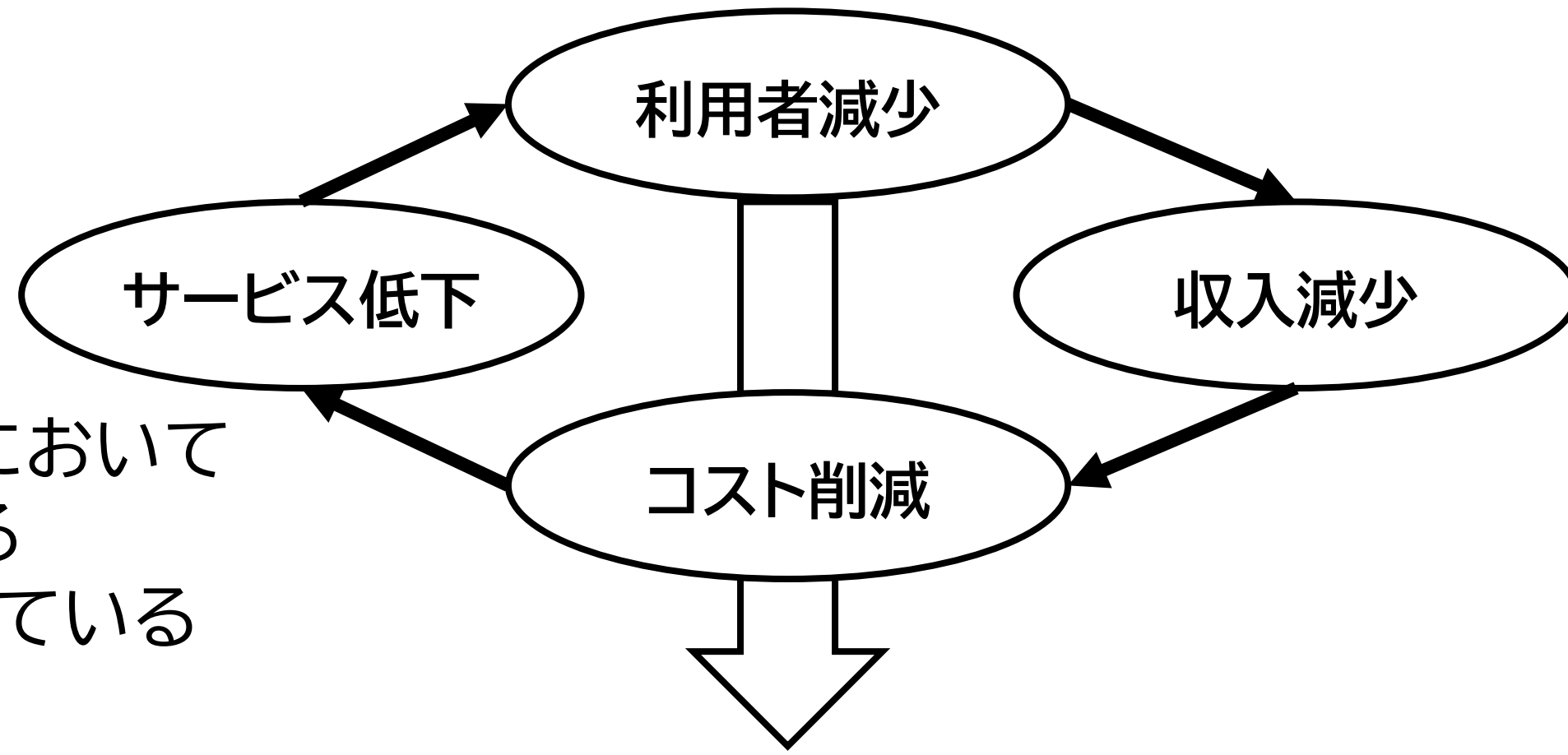
元・京都大学大学院工学研究科  
 京都大学大学院工学研究科  
 京都大学大学院工学研究科

水川堯  
 川端祐一郎  
 藤井聡

## 背景・目的

### 背景

- (特に地方部において)  
人々の生活の足となる公共交通の確保が重要な課題となっている一方で…
- (特に地方部において)  
公共交通の利用者が減少し、路線の廃止が相次いでいる



地方部の公共交通機関において土井(2008)の指摘する「負のスパイラル」が生じている

こうした状況下において、新規にバスサービスの拡充を実現するためには、**安定的な収益が生み出されるだけの利用者数の確保が必要**となるそこで…

自治体等による利用促進に頼るのみでなく、**公共交通サービスの維持・拡充を求める地域住民・利用者自身が主体となり、積極的な利用・利用促進を行うことが求められている。**

### 目的

京都市では、地域住民が主体となり、区役所や交通事業者と協働してMM活動を行い、実際にバス利用者の増加とそれによるバスサービスの拡充に成功している事例が報告されている(例えば、児玉ら, 2017)そこで本研究では、

**地域住民主体MMによる路線バスサービスの拡充が現実的に可能である**ということを示し、その成功の要因について明らかにすることで**他地域の同様の課題解決に貢献することを目指す。**

### 仮説

「需要が少なければ運行継続はできなくなる」という意識を、何らかの形で**地域住民と事業者の間で共有**することで、**地域住民の積極的な乗車が促されているのではないか?**  
 ⇒ここでは「**自覚的バストリガー方式**」と呼ぶ

## 研究の方法

京都市内各地における、地域住民が主体となってMMを行い、バス路線の拡充や維持に成功している事例について、関係者にヒアリング調査を行い(2019年4月から2020年1月にかけて実施)、各種資料を加味した上で、その成功要因や課題について考察を行う。

○各取り組みの中心人物

| 地域名   | 対象路線         | ヒアリング対象                               |
|-------|--------------|---------------------------------------|
| 南太秦学区 | 京都市営バス70号系統  | ・高岡宏行氏(自治連合会会長)                       |
| 柘野学区  | 京都市営バス特37号系統 | ・西村淳暉氏(自治連合会会長)                       |
| 松陽学区  | 京都市営バス69号系統  | ・城崎佐代美氏(前・自治連合会会長)<br>・飯野昭則氏(自治連合会会長) |
| 福西学区  | 京都市営バス特西4号系統 | ・藤本廣志氏(自治連合会会長)                       |
| 鏡山学区  | 京阪バス鏡山循環バス   | ・岩崎泰大氏(前・自治連合会会長)                     |

○行政・交通事業者  
 京都市都市計画局歩くまち京都推進室、京都市交通局  
 ○MMアドバイザー  
 土井勉氏、神田佑亮氏

## 各地域の特徴的な取り組み

### ◎南太秦学区:京都市営バス70号系統

- 年2回の住民参加型のMMワークショップを実施  
各参加者が、交通局が配布する「お試し乗車券」を利用することで、「自分自身の交通行動や、公共交通に対する見方、感じ方が実際にどのように変化したか」について、他の参加者の前で経験談の形で振り返り、**相互に気づきや共感を得る**ことを通じて、意識の変容を図る
- ⇒ **営業係数の黒字化達成、3度も増便、および延伸を実現**



### ◎柘野学区:京都市営バス特37号系統

- 地元小学生が描いたバスの絵をバス内に掲示
- 京都大学の学生によるバスの活用プランの提案
- ⇒ **本格運行化や増便、学区北部への延伸を実現**

### ◎松陽学区:京都市営バス69号系統

- バスを利用し、寺院を訪れ座禅体験などを行うツアーの企画  
体験的にバスに乗ってもらうことで利便性を知ってもらい、利用の習慣づけを図る
- ⇒ **昼間、早朝時間帯の増員を実現**

### ◎福西学区:京都市営バス特西4号系統

- 地域のケーブルテレビ局にて、バス利用を呼び掛けるCMを放送  
学区を超え、地域全体にバスの認知が広まる
- ⇒ **土休日のみの運行から、平日運行、さらに増便の実現**

### ◎鏡山学区:京阪バス鏡山循環系統

- 地域のもちつき大会にて、「鏡山循環バスに乗ろう」と書いたおもちを配布
- 小学生による、バスを題材とした学習成果の発表
- ⇒ **実証運行から本格運行へ。更に昼間時間帯の試行的増便を実現**



☆行政・交通事業者側の取り組み

### ◎京都市歩くまち京都推進室

- 「『スローライフ京都』大作戦」の名の下、MM事業を強力に推進
- 「**地域MM**」制度の創設  
**地域団体と区役所が連携したMM事業に対し助成金を拠出する**

### ◎京都市交通局

- サービス拡充の要望のあった地域に対し、**MMの事例や手法、各種支援事業について「紹介」。**
- 地域のMMの継続的な推進を行う体制を整えていることなどを条件に試行的にサービス拡充を実施し、3年を目途に評価。  
利用者数が増加し、**採算ラインの到達が見込まれれば運行の継続・更なるサービスの拡充を行い、利用者数が増加しない場合には運行を終了する**

## 考察

①試行運行という形態を採ることで、「**バスの運行には一定以上の利用者の確保が必要であり、確保が難しければ撤退の可能性もある**」という事実が共有され、**地域住民自身による主体的なMM活動が喚起されている**  
 ⇒「**自覚的バストリガー方式**」仮説を支持?

②地域へ適宜、**利用状況などのフィードバック**を行うことで、**路線の置かれている状況を客観的にイメージし易くなり、活動の成果の実感によるモチベーション向上、或いは危機感を高め、更なる積極的な活動につながっている**

(参考文献等)

- ・土井勉(2008). 公共交通・負のスパイラルからの脱却について, 土木計画学研究・講演集 Vol.37.
- ・児玉宜治・萱島慎一郎(2017). 京都市交通局(市バス)路線沿線における地域主体のMMと一体となった路線・ダイヤの拡充～最近の取組状況とバスのご利用状況～, 第12回日本モビリティ・マネジメント会議, 福岡.